

# 若者に使ってほしいプログラム集

## 1 若者が主体的に参画する活動プログラム

若者が主体的に参画し、地域の大人を巻き込んで進めていくための活動プログラムです。地域の子どもたちにとって魅力があり、参加したくなるようなプログラムを考えました。魅力があるだけに活動を進めていく上で、それぞれ課題があります。これらの課題を解決していくことで、若者の成長と地域社会の活性化を期待したいと思います。

## 2 地域で活動する若者の育成プログラム

地域の子どもたちと日常的に遊ぶことで、子どもを理解すると同時に人間関係づくりをして、子どもたちの考えていることを引き出し、子どもたちと一緒に地域で活動していくにはどうしたらいいのかを体験的に学ぶプログラムです。

既存の若者のグループ(例えばジュニアリーダーズクラブ等)による自主研修プログラムと地域で活動する若者をもっと増やしていくための行政(青少年主管課等)による研修プログラムの2つを用意しました。関係機関・施設等の協力が必要なので、準備期間が必要ですが、施設のニーズと一致すれば継続的に行えるものとなるでしょう。

# 若者に使ってほしいプログラム集

## 1 若者たちが主体的に参画する活動プログラム

では若者が子ども活動の支援をすることで、子どもが健やかに育ち、地域社会が活性化するのではないかという提言をしました。この章では、実際に若者が地域で使えるプログラムを提供します。

取り組みやすく、すぐに使ってみたくなるものを目指しましたが、地域によって事情が異なりますので、このプログラム通りにできるというわけではありません。その地域にあった方法で、改良して取り組んでいただきたいと思います。

各プログラムは、若者が主体的に立ち上げて、活動を進めていくような形のものとなっています。若者側からのアクションを期待しているからです。しかし地域の大人がこれらのプログラムを実現させたいと考えた場合、大人側から若者にアプローチして、一緒に進める形でもかまわないと思います。結果として子ども・若者が参画し、大人が支援することで進めていくことができれば、それでいいのではないかと思います。

それぞれのプログラムを実現するためには、解決しなければならない課題がいくつかあります。この課題を地域の子ども・若者・大人が知恵を出し合って、解決していくことが大事なことです。その過程で子ども・若者が成長し、また地域社会の活性化にもつながっていくことでしょう。

### 「若者たちが主体的に参画する活動プログラム (P.12 ~ P.37)」の見方

活動の趣旨 : 活動を実施する目的や理由を箇条書きで示しています。(目的:Why)

主な活動内容 : 中心となる活動内容を箇条書きで示しています。(内容:What)

【 データ 】 : 活動を実施する上の基礎的なデータです。  
(誰が:Who、いつ:When、どこで:Where、  
どれぐらいの費用で:How much)

【日程プログラム】 : 活動をどのように進めていくのかを時間を追って説明しています。  
(どのように:How)

活動のポイント : 実際に活動を進めていく際に、目的を達成するために必要なポイントと活動を円滑に進めるためのヒントを箇条書きにしました。

# ちょこっとアウトドア

～近所でキャンプできたらいいな～

## 活動の趣旨

- ・子どもたちが普段遊んでいる公園(広場・河原・海辺)を会場に、「キャンプ」という異質な空間を持ち込むことにより、地域に住む大人・若者・子どもが協力して過ごす体験をし、楽しむ。
- ・「アウトドア(野外)体験活動」をあまり体験したことのない子どもたちに、機会を作る。



## 主な活動内容

- ・テントによる宿泊・野外料理・レクリエーション(キャンプファイヤー、ウォークラリー、肝試し等)

### 【データ】

#### 実施主体

ジュニアリーダー、子ども会役員など

#### 実施地域

単位子ども会レベル

#### 連携(協働)先とその内容

子ども会(コアスタッフ)、  
自治会・町内会役員(コアスタッフ)など

#### 活動形態

イベント

#### 実施時期

夏休みが好ましい。

#### 準備開始時期

実施日から数えて4ヶ月くらいは必要。

#### 参加対象・定員

対象:地域に住む住民  
定員:会場となる公園(広場)の大きさによる

#### 募集方法

自治会・町内会の回覧、掲示板など

#### 実施場所

近くの公園・広場・河原・海辺など

#### 経費・財源

自治会費及び参加者負担



### 【日程プログラム】

\* イベント立ち上げの時は以下の手順を取るとよい。

#### 発起人による会議

子ども会や町内会に賛同を得られるように、趣旨やおおよその計画をたて、プレゼンテーションの準備をする。

子ども会や町内会の会合に出席し、  
プレゼンテーション(提示、発表)

#### コアスタッフ(中心となるスタッフ)募集

子ども会役員など、若者・子どもを積極的に募集する。

大人の側は子ども会指導者や町内会役員にもスタッフになってもらう。

#### コアスタッフ会議 (例:4月中旬～2回)

計画の見直しをし、原案を作成する。  
スタッフ募集の広報を作る。

#### スタッフ募集(例:4月下旬)

回覧や掲示板にて、スタッフを募集する。

#### スタッフ会議(例:5月下旬～3回)

コアスタッフの作った計画の原案を検討し、計画案を練り上げる。役割分担を明確にする。

#### 役割分担に沿って、活動

参加者募集、渉外などの活動をそれぞれ行う。

#### スタッフ会議(例:7月中旬)

役割ごとの進捗状況をチェック

#### スタッフ会議(例:8月中旬)

実施するための最終チェックと準備

#### 実施当日(例:8月下旬)

スタッフ反省会(特に時期は定めない)

## 活動のポイント

### 【実施地域の特徴】

- ・どこでも、可能であるが、火を扱うことになるので、会場となるところはある程度の広さが必要である。

### 【子どもの参画の仕方】

- ・スタッフ会議に参加し、子どもが果たせる役割等を考え、意見を述べる。
- ・広報用のポスターなどできることは積極的に参加する。
- ・当日の活動の中心となる。

### 【若者の関わり方】

- ・活動の企画・運営・実施に関わる。
- ・当日は子どもを支援する立場となり、企画がスムーズに進むようにマネジメント(管理)する。

### 【大人の巻き込み方】

- ・子ども会や町内会の会議に出席し、おおよその計画をプレゼンテーションして賛同を得るようにする。資金援助の可能性が出てくる。
- ・大人にとっても、交流の場であることをアピールすることが大切である。

### 【活動を円滑に進めるために】

< 継続して実施するために >

- ・実施主体は、初期は大人がある程度主導になっても仕方ないが、若者から意見を取り入れていく姿勢を持つことと、若者にできることは権限委譲していくことを心がけていく必要がある。いずれは、主導から支援していけるように、若者を育成していく。
- ・野外活動においては、リスクはつきものである。リスクマネジメント(危機管理)については十分計画の段階で盛り込まなくてはならない。参加者(子どもの場合は保護者も含む)には「リスク(軽微な怪我などたいしたことの無い危険)とハザード(命に関わるような、取り返しのつかない危険)をしっかりとわきまえて、参加してもらう必要がある。

< 事前のチェックポイント >

- ・水場・トイレがあるかどうかの確認は必ずやっておくとよい。
- ・会場となる場所は管理者が行政であったり、民間であったり、または私有地であったりするので、その許可を得る必要がある。手続きの手順を調べておく必要がある。(公園を使用する場合は、市町村に公園管理条例などの法律があるので、それに従って申請を出す必要がある。海岸や河川については使用したい場所についてよく調べ、管理規則等が定められていないか確認する必要がある。火を扱う場合は、いずれの場所で行うにしても消防署に届けを出しておく。)
- ・野外料理やキャンプファイヤーなどを行うときは、付近に住宅がある場合は特に、煙対策や事前の周知を徹底する必要がある。

公園に関する問い合わせは、各自治体の公園管理の担当課に問い合わせてください。

< 会議場所 >

- ・役割ごとに会議の必要が出てくる可能性がある。そのために、自治会・町内会館等を会議場所として、すぐに使えるようにしておくとうい。

< 内容の工夫 >

- ・バーベキュー大会など行事がある場合は、それにジョイント(合同で実施)していく方が計画に無理がなくてよい。

< スタッフ・大人の協力者 >

- ・地域の情報として、スタッフ、アドバイザー(助言者)等になってくれそうな、野外活動に堪能な大人を調べておき、協力を求めるとよい。
- ・ジュニアリーダーズクラブ全体で取り組むよりも、その地域に住むリーダーが中心となり、そこに他のメンバーがサポートする形の方が地域の大人たちに理解を得やすい。また、ノウハウ(know-how:技術的知識・情報)が固まってくれば、他地域においても広がっていく可能性が開けるであろう。
- ・コアスタッフ・スタッフはなるべく子どもも含めて、幅広い年齢層から募集する。地域の連携を強めていく上でも、積極的にすすめていく。

# 空き地はぼくらの遊び場だぁ！

～ 子どもたちによる遊び場作り～

## 活動の趣旨

- ・地域で子どもが自由に遊べる場所がなくなってきているので、遊び場を提供する。
- ・空き地という空間を使って、子どもたちの自由な発想を育てる。

## 主な活動内容

地域で使われていない比較的広い空き地を借り受け、年間を通した遊び場づくり

### 【データ】

#### 活動主体

地域の若者(中高生) 5 ~ 10人程度

#### 実施地域

複数の子ども会あるいは自治会単位

#### 連携(協働)先とその内容

例えば、れんげ畑を作って遊ぶことを考えたとき自治会・子ども会・小中学校 PTA(協力)、青少年主管課(資金援助、空き地の情報提供)、農家(れんげ畑の指導、わら提供)、公民館等(会議場所提供)

#### 活動形態

年間通して、日帰り、宿泊の行事とイベントを組み合わせる。

#### 実施時期

年間通して随時

#### 準備開始時期

随時だが、例えばれんげ畑に間に合うようにするためには、3月から

#### 参加対象・定員

地域の子ども・若者・大人、定員は特になし

#### 募集方法

自治会の広報・掲示板、地域の小学校でチラシ配布

#### 実施場所

地域の空き地

#### 経費・財源

子ども会会費、助成金、イベントの売り上げ等



### 【日程プログラム】

3月

#### 第1回コアスタッフ会議

発起人グループによる、計画骨子を考える会議。公民館、児童館、地区センターなどを借りて月2回程度の会議を継続する。

4月下旬

#### 空き地探索隊出動

5月

#### 関係団体等協力依頼

自治会、子ども会、農家、小中学校 PTA、青少年主管課への協力依頼(資金・広報等含む)する。また、空き地情報を持っている部署を紹介してもらう。協力してもらえる大人スタッフも募る。

5月下旬

#### 協力農家決定

遊び場となる空き地を決定する。

6月

#### 子どもスタッフ募集イベント計画・準備

空き地の整備、秘密基地の材料集め等含む。

7月下旬

#### 子どもスタッフ募集イベント実施

(例)秘密基地づくりをして、キャンプする。

8月中旬

#### 子ども・若者スタッフ

#### 合同ワークショップ

子どもからのアイデアを募集、れんげ畑を利用したイベントや日常的な使い方等ワークショップ:共同で何かを創り出す作業を表し、参加・体験型の会議や研修、実践の場などである。

9月下旬(例)

#### れんげの種まき

れんげ畑フェスティバルを実施するとしたら、協力農家の指導を受けて実施

10月

#### 日常的な利用スタート

(例)秘密基地強化作戦として、わらぶき屋根の基地づくりをする。11月秘密基地強化完了

12月

#### 冬季利用を考えるワークショップ

冬季(12月末~3月)利用あるいは年末年始のイベントのアイデアを子どもたちから募る。

12月下旬~1月初旬

#### (例)カウントダウンフェスティバル

大晦日に、新年を迎える際零時前に、参加者全員で、秒読みをする。秘密基地で年越しそばを食べ、そこで年明けを迎える。

2~3月

#### れんげ畑フェスティバル計画・準備

4月下旬~5月中旬

#### れんげ畑フェスティバル実施

6月

#### 今後の利用を考えるワークショップ

子どもスタッフに、1年間の活動をふりかえってもらい、今後の活動をどうするかを若者スタッフと考えてもらい、今後につながる。

## 活動のポイント

### 【実施地域の特徴】

広い空き地があるような場所

企業誘致の予定地などで、買い手がつかず空き地になっているような場所  
工場が移転した跡地(跡地に計画がある場合は、一時的な使い方になる)

### 【子どもの参画の仕方】

- ・子どもスタッフはアイデアを考え十分に出す。
- ・イベント時はスタッフとして、友人などに声をかけ一緒に働く。
- ・日常の遊び活動で、低学年の面倒を見る。

### 【若者の関わり方】

- ・遊びながら、子どもとの人間関係づくりをする。
- ・子どもスタッフのやる気を維持・向上するための工夫として、子どものアイデアをできるだけ尊重する。また役割がない子どもがないようにする。
- ・子ども・若者のアイデアを大人にいかに関わり理解し賛同してもらうかが大事なので、焦らずじっくり説得することが大切である。

### 【大人の巻き込み方】

- ・地域の人たちにもメリットがあるように、話を持っていくことが大切である。
- ・地域で誰(核になっている人)に話を通せば、円滑に進めることができるのかを事前によく調べておき、誠意を持ってお願いすることが大切である。
- ・キャンプや年越しを外とするようなイベントもあるので、支援してもらえる大人スタッフを集めることが重要である。キャンプ好きやアウトドアクッキング(野外料理)が好きな父親や地域の大人が必ずいるので、何とかおだてて参加してもらう。
- ・昔から住んでいる人たちと、新しく移り住んだ人たちが一緒にできる楽しい内容の活動を考え、協力・参加を促す。

### 【活動を円滑に進めるために】

< 会場 >

- ・企業誘致の計画が進まず、使われずに放置されているような場所を探してみる。自治体で情報を提供しているところもある。そういう場所の有効利用として、自治体に話を持ちかける。

< 事前のチェックポイント >

- ・空き地で可能な活動範囲を借用する地主と十分に打ち合わせる。例えば、火を使って調理をできるようにしたいが、火を使えるのか、使えるなら直火でもいいのかだめなのかを確認するなどが必要である。もし直火がだめならたき火台や七輪などで工夫する。

< スタッフ・大人の協力者 >

- ・もしレンゲ畑を作るのであれば、地主に許可を得ることと指導してくれる農家も早くから探しておく必要がある。
- ・子どもスタッフを募集する際のイベントはできるだけ楽しいものを考え、たくさん集まるものにする。スタッフとしては小学校4～6年生ぐらいが、自分で考えて動けるので、いいだろう。
- ・日常的な活動を重視する。例えば週2回程度は、子どもが遊べるようにしたい。その際常駐して安全管理や遊び相手になるような若者スタッフまたは協力してもらえる地域の大人を募集するといい。
- ・秘密基地づくりの際には、材料調達できるかどうかが大変である。特に材料として竹は必須で、竹林を持った地主に協力依頼をする。

< 内容の工夫 >

- ・1年契約であれば、秘密基地の材料を処分する必要があるため、あまり恒久的な材料を使用せず、秘密基地は簡易なものとする方がいい。
- ・日常活動は、あまり制限を加えず自然発生的な遊びをしてもらえればよい。例えば雪が積もれば、雪合戦、かまくらづくり、雪だるまづくりなどである。
- ・わらぶき屋根を葺く技術者がいないと思われるので、子どもたちの自由な発想に任せればよい。
- ・「カウントダウンフェスティバル」では、支援してもらえる大人を多数集めて、子どもが安心して参加できるようにする。
- ・「れんげ畑フェスティバル」の内容としては、「匍匐(ほふく)前進迷路づくり・遊び」、「ギネスに載せよう! レンゲの花輪づくり」など、考えればたくさん見つかる。
- ・イベントではできるだけ農家の作物を使った食べ物を作って提供(販売も可)する。



# つくって・漕いで・冒険に出発だ！

～自分たちの手で作ったカヌーでレイクツーリングへ出かけよう～

## 活動の趣旨

- ・異年齢の集団が、地元産の木材を使いカナディアンカヌー(カナダの先住民が使っていた木製の小艇を原形にした小型の艇)を作ることにより、製材の技術にふれるとともに、チームが分担してものを作り上げることの楽しさを体感する。
- ・出来上がったカヌーを使って基本操作について研修をするとともに、水辺の活動における危険性についても知識を深め、セルフレスキュー実習で仲間同士が助け合う大切さを体感する。
- ・カヌーで湖に漕ぎ出すことにより、コンビネーションの大切さを体感し、雄大な自然の中を全員の協力で漕ぎ渡る達成感を味わう。

## 主な活動内容

製材、カナディアンカヌーおよびパドル製作(4～5艇)、カヌー基本操作研修、カヌーセルフレスキュー研修、レイクツーリング(湖周遊)、オークション体験

### 【データ】

#### 実施主体

ジュニア・シニアリーダー・大学生

#### 実施地域

神奈川県全県下

#### 連携(協働)先と内容

製材所:材料の購入と製材

カヌークラブ:製作指導

カヌークラブ:基本操作、レスキュー指導

ツーリングガイド依頼

地元学校:制作・保管場所提供

関係省庁:湖の使用許可申請

県立清川青少年の家:相談全般・指導依頼・

TEL046-288-2319 紹介

#### 活動形態

年間を通して日帰りまたは一泊程度の日程で製作会を実施。各研修会・レイクツーリングについては日帰り実施

#### 実施時期

1年間

製作:6ヶ月～8ヶ月

各研修:夏休み期間中

レイクツーリング:1月

オークション実施:3月

#### 準備開始時期

1月

#### 参加対象・定員

小学校高学年～

大学生 20人

程度

#### 募集方法

各地区青少年施設

へのチラシ配布、各学校への

チラシ配布

#### 実施場所

製作・保管を依頼

できた小・中・高等

学校等

#### 経費・財源

連携協力先より

借り入れ、カヌーオ

ークション売却によ

り、収益を補填



### 【日程プログラム】

- 1月中旬 第1回コアスタッフ会議  
発起人数名による、計画骨子を考える  
会議、連携先検討
- 1月下旬 第2回コアスタッフ会議  
連携先への打診・挨拶  
実施要項作成・実施計画作成  
広報計画検討
- 2月中旬 第3回コアスタッフ会議  
連携先への依頼作成・依頼  
チラシ作成
- 3月初旬 コアスタッフ・連携先協力者会議  
実施計画等説明、意見交換  
参加者募集
- 3月下旬 参加者決定、関係書類送付
- 4月 参加者への説明会  
コアスタッフ・連携先協力者紹介  
スケジュール説明
- 5月 製材(作業工程に参加)
- 6月～ 製作開始(制作日を決めて)
- 7月下旬～8月下旬  
製作と同時並行で基本操作研修、  
セルフレスキュー研修を実施
- 9月～1月下旬  
カナディアンカヌー完成  
行程が遅れているグループは全員が手  
伝い完成させる。  
レイクツーリング日程・計画全般検討、  
湖の使用申請提出
- 2月中旬 レイクツーリング実施  
無事帰還打ち上げパーティー  
オークション出品話し合い
- 3月初旬 オークション出品・売却  
連携協力先報告、お礼  
実施主体に収益を補填

## 活動のポイント

### 【実施地域の特徴】

- ・森林組合や製材所があり林業が行われている地域
- ・カヌーの製作技術の指導者がいて、協力者が得られる地域
- ・カヌーの操作技術、セルフレスキュー指導をしてもらえる協力者が得られる地域
- ・カヌーでレイクツーリング(湖周遊)を実施できる湖がある地域

### 【子供の参画の仕方】

- ・年齢に応じてそれぞれの役割を担い、カヌー製作の過程を楽しみながら参加する。
- ・カヌーを漕ぐこと、水辺での危険に、気づき今後の活動に活かしていく。
- ・様々な場面で、年上の相手に対しても自分の意見を述べることの大切さを経験する。
- ・雄大な自然の中で目標を達成する喜びを体感する。

### 【若者の関わり方】

- ・活動の企画・運営・実施について、グループ内の自由な意見交換の雰囲気作りを心掛ける。
- ・年少の参加者も自らの役割分担の中で製作に参加できるよう配慮する。
- ・カヌーの基本操作、水辺のセルフレスキュー方法を学び、今後の活動に活かせるように資質の向上に努める。
- ・みんなで協力し、助け合い、やり遂げていくことの大切さを体感する。
- ・雄大な自然の中で目標を達成する喜びを体感する。
- ・地域の連携協力者との交流を通して、コミュニケーションの仕方を経験し学ぶ。

### 【大人の巻きこみ方】

- ・地域の連携協力者(大人)に交渉する際に、明確な目的、入念な準備計画、早めの相談・準備、企画運営の情熱の伝え方が大切である。
- ・相手の意見は率直に受け入れ、企画運営に反映する。

### 【活動を円滑にすすめるために】

< 継続して実施するために >

- ・カヌーは最終的にオークションにかけて売却してしまうのでなくなってしまう。但し、自作のパドルは各自の手元に思い出の品として残ることになる。ここまででとりあえず企画は終了となる。しかし、第1回目の参加者の中でやる気のあるものがいれば、新たな仲間を募り、また1からカヌー製作に打ち込み、次々に仲間の輪が広がっていくことを期待できる。

< 製作場所 >

- ・製作場所の確保が必要。製作期間を短縮することも可能なので、交渉次第である。

< 大人の協力者 >

- ・製作経験のある協力者を捜してみる。キットを使った製作ならば、説明書に従って、経験のある方の指導・助言をもらいながら作ることが出来る。
- ・塗装の専門家の助言をもらえれば、より仕上げもきれいになる。
- ・完成した後、どの湖で漕ぎ出すかも大切なポイントである。自然湖・河川は許可無く漕ぎ出すことが可能であるが、人工のダム湖では許可が必要で、個人の申請により許可をもらうのは難しいのが現状である。
- ・カヌーを漕ぎ出す際の危険についても事前にレクチャーをしてくれる協力者が必要である。危険性を事前に知っていれば、準備をして危険を回避することができる。

< 予算 >

- ・製材から始めるのか、キットを利用するのかによって、予算、人員等の条件が変わってくる。参考までに以下に自作キットによる金額を掲載しておく。

- |            |                                |
|------------|--------------------------------|
| (1)自作キット   | 10万～20万 / 1艇 程度。               |
| (2)工 具     | 3万円程度 / 1セット                   |
| (3)消耗品     | 2万円程度 / 1艇                     |
| (4)指導者謝金   | 1回(全日)につき5千円～1万円程度、20回程度。交渉次第。 |
| (5)製作場所借用料 | 交渉次第。                          |

# みんなで先生体験！

～世界に一人だけの楽しい先生に～

## 活動の趣旨

- ・異年齢の子ども・若者が関わることにより、普段にはない出会い、人間関係をつくることができる。
- ・自ら地域を調べたりすることで、自分たちが住む地域と地域の住人について知るきっかけとなる。

## 主な活動内容

子ども、若者、大人が参加者の地域の人々(子ども、大人等全世代の人々)に自分たちの得意なことを「教えること」、「指導すること」を体験する。

### 【データ】

#### 活動主体

ジュニアリーダー、子ども会など

#### 実施地域

中学校区程度がよい。

#### 連携(協働)先とその内容

自治会、子ども会、小中高等学校 PTA、公民館など

#### 活動形態

イベント

#### 実施時期

夏休み以降が望ましい(夏休みに準備ができるので)。

#### 準備開始時期

夏休み以前が望ましい。

#### 参加対象・定員

基本は地域に住む人たちだが、誰でも参加可能、定員は特になし

#### 募集方法

自治会の広報・掲示板、地域の小中学校でチラシ配布

#### 実施場所

どこでも可能だが、学校、公民館などが望ましい。

#### 経費・財源

子ども会会費、自治会費、参加者負担

### 【日程プログラム】

- 4月 **コアスタッフミーティング**  
発起人を中心に口コミでコアスタッフになってくれそうなメンバーを集める。公民館、児童館等で顔合わせをする。
- 5月 **コアスタッフ会議**  
イベント実施時期を含めた年間計画について話し合う。また自分が何の先生を担当するかを話し合う。
- 5月下旬 **関係団体等協力依頼**  
自治会、子ども会、教育委員会、小中高等学校PTAに協力を依頼(資金、広報等)し、共催の形にして、イベントの会場の決定する。
- 6月 **子どもスタッフ募集、若者スタッフ募集**  
自治会、町内会、ジュニアリーダー等に募集の協力をしてもらおう。
- 7月 **地域の活動、団体を調査**  
自治会、公民館等に地域での活動している団体を調査。また、6月に募集した子ども若者スタッフに、先生をやってくれそうな人材、中高校生の部活等ボランティアでかかわってくれそうな人を紹介してもらおう。
- 8月 **子ども、若者、大人に先生依頼**  
7月に決まった人たちに協力を依頼する。
- 8月下旬 **コアスタッフ会議**  
自分たちが何を教えるのか、子ども、若者、大人の先生をやってくれそうな人たちの誰に依頼するかを決める。
- 9月 **広報活動、イベント当日の日程を決める**  
各先生の配置場所、アトラクション等時間的なことも含めて話し合う。
- 9月下旬 **スタッフ会議(先生になってくれる人も含める)**  
各配置の説明、当日の流れを説明する。チラシ配布を各先生たちにも協力してもらおう。
- 10月 **コアスタッフ会議**  
当日のスタッフの配置、協力団体へのイベント案内等の確認をする
- 10月下旬 **イベント「いろんな先生大集合！」開催**
- 11月 **ふりかえりのためのコアスタッフ会議**  
活動、イベントのふりかえりを行う。また、慰労会の企画を行う。
- 11月下旬 **慰労会「今年もみんなありがとう！会」**  
子ども、若者、大人スタッフ、協力してくれた関係団体に集まってもらってイベントのふりかえり、今後の活動について考える。

## 活動のポイント

### 【実施地域の特徴】

- ・特になし

### 【子どもの参画の仕方】

- ・子どもスタッフも遊びやゲームなどで先生として参加する。
- ・また、イベント時は低学年の面倒も見る。



### 【若者の関わり方】

- ・子どもの気持ちや言葉を代弁して大人へ伝える。また、大人の言葉を子どもへ分かりやすい言葉で伝える通訳としての役を担う。
- ・地域の高校、大学のクラブ、サークルなどに協力してもらうのもよい。(スポーツの先生等)

### 【大人の巻き込み方】

- ・地域のサークルや活動団体に対して子ども、若者に地域の活動を知ってもらいたいということ伝える。
- ・子ども、若者にかかわりたいと思う大人は、必ずいるので、根気よく探し協力を得る。(PTAなどの協力を得ながら活動できると学校の理解も得やすい。)

### 【活動を円滑に進めるために】

#### < 会場 >

- ・イベント会場にフリースペースも用意する。そこでは、子ども、若者がスタッフとして常駐し、疲れてしまった子どもが気分転換出来るように努める。気をつけるのは、ずっと子どもがそこだけにいないようにすること。
- ・会場では、いくつかのグループごとにまとまってブースをつくる。子ども、若者、大人の先生役で1つのグループとなると結果的にいろいろな世代が集まるのでいい。

#### < スタッフ・大人の協力者 >

- ・うまく教育委員会、学校に協力してもらえると、近隣の学校にもスタッフ、参加者などを募集してもらえる可能性がある。
- ・イベント時に低学年の子も楽しく参加できるように簡単な内容のプログラムも用意する。また、昔遊びの先生を大人に願うのもいい。
- ・ハプニングには、冷静に対処する。大人にも場合によっては協力してもらうこと。

### 例(学校を借りる場合)

- ・会場内を用途によって振り分ける。(スポーツ等は体育館、料理系なら料理室等)
- ・プログラムの配布(各部屋で何をやっているかなど)、落し物、忘れ物の管理、連絡等のための本部を入口に近いところにおく。
- ・若者に各会場の状況、トラブル等のためのパトロールをしてもらう。
- ・片付けの事もあるので、15時くらいで終了する。会場全体で片付け、掃除等を行う。

### 主な先生例

#### < 子ども、若者から >

パソコン教室、固くなった頭チェック(簡単なクイズ等)、知ってる? 流行の遊びなど

#### < 大人から >

大人と勝負! 将棋対決、動物のお話、みんなも出来る日曜大工など

(注) 以上は各世代のイメージで考えたものですので、各世代に特定したものではありません。自分たちの考えられるものを自由に出して先生になって下さい。



# 私たちの地域の教科書づくり

～子どもと大人で地域社会のモラルについて考えよう～

## 活動の趣旨

近年、子どものモラルの低下が社会問題化しているが、その解決のためには「まず大人から」襟を正すことが大切ではないだろうか。タバコのポイ捨てや電車内での携帯電話をはじめ、授業参観のときにおしゃべりをする親、深夜まで幼児を連れて買い物をするなど、他人に迷惑をかけなければ何をしてもよいという親の風潮が公共心の欠如など子どもの健全な成長の妨げとなっている。

この活動は、青少年の健全な育成には「親の教育こそ必要」「どのようにすれば親の教育が可能か」との意見に応えたワークショップ(参加・体験型)形式での事業である。

## 主な活動内容

- ・モラルを考え直すための大人向けの教科書を子ども・若者が作成する。
- ・モラルについて子ども・若者と大人の討論会をする。

### 【データ】

#### 活動主体

子ども会や学校(小学校高学年～高校生くらいまで)

#### 実施地域

地域や学校等

#### 連携(協働)先とその内容

P T A や地域の大人たち

#### 活動形態

ワークショップ形式

#### 実施時期

半年くらいを想定

#### 参加対象・定員

地域の小・中・高校生、大人(討論会のときに参加)

#### 募集方法

子ども会や学校などでチラシ配布  
公民館報などで募集

#### 実施場所

社会教育施設や学校

#### 経費・財源

事務用消耗品程度、  
P T A や公民館などの  
事業として取り上げる  
ことで捻出



### 【日程プログラム】

#### 4月 準備会議

発起人グループによる、計画骨子を考える会議。

#### 5月 第1回ワークショップ(以下WS)

日程の確認

自己紹介ゲーム

公共の場で「してはいけないこと、不快なこと」を自由に話し合う(ブレインストーミング 付せん利用)

進行役は若者が望ましい

#### 6月 第2回WS

前回のふりかえり

公共の場で「してはいけないこと、不快なこと」について第1回で記入した付せ进行分类(シチュエーション別)

内容を班内で発表

#### 7月 第3回WS

班で発表した内容を全体で共有し、項目ごとに、A4サイズヘイラスト入りで作成する。(教科書作り)

発表へ向けた役割分担、練習

#### 8月 第4回WS

地域の大人たちの前で発表

大人たちと子どもたちが互いに話し合う場を設ける。(しゃべり場)

#### 9月 P T Aでの啓発開始

P T Aなどで配布し、大人のマナー向上に努める。

子ども・若者と大人の  
討論会実施

ワークショップ開催の1週間  
前に打合せ会議を開催し、進行  
や準備物品について確認する。



### 【実施地域の特徴】

- ・公民館区や自治会区などの「地域」を対象地域とする。

### 【子どもの参画の仕方】

- ・小学校高学年～高校生くらいまで参加が可能
- ・互いに話せる雰囲気さえできれば、世代ごとの「常識観」のギャップ(どこまで許せるか)の大きい方が議論が盛り上がり予想されるので、グループ内の世代を可能な限りシャッフルするとよい。

### 【若者の関わり方】

- ・若者が発起人になってくれるかどうか難しい。そういう場合は、大人の側で若者をその気にさせて、スタッフとして若者に何とか参画してもらわなければならない。
- ・実際にワークショップをしたときに、意見がたくさん出るか或いは内容が少しシビアなので静かになってしまうかによるが、進行役は若者が望ましい。子ども・若者たちは大人たちを目の前にしては、なかなか本音で語ってくれないと思うからである。子どもたちから本音の意見を引き出したり、子どもの意見の視点を変えたり、大人たちの(頭の固い)意見を子どもが理解できるような言葉へ変換したりするような役割は「子どもでもない・大人でもない」若者ならではの役割だと考える。

### 【大人の巻き込み方】

- ・PTAに話を持ちかけ、協働して取り組んでもらうようにするとよい。
- ・大人がワークショップのファシリテーター(一人ひとりの持っている経験、知恵、気づきを引き出し学習と参加を促進する人)や参加者として各班に1名ずつ入ってもらうとよい。

### 【活動を円滑に進めるために】

<ワークショップの進め方>

- ・ワークショップ形式で進めることで、子ども・若者の意見を集約できるようにする。
- ・ワークショップの運営サイドに関わる中心的なメンバー(若者)と参加者(子ども)とに分け、それぞれが自分の意見を述べたり、役割を果たす場面を作り出すことが大切である。
- ・大人だけではなく大人と子どもがともにマナーの向上を考える契機として行うという視点が大切であり、そのための仕掛を考えるとよい。例えば討論会を実施し、多くの大人・子どもを集めて皆で考えるイベントなどである。
- ・基本的に正解があるわけではないので、できるだけ沢山話し、知らない人とのコミュニケーションを楽しむという視点が大切である。
- ・公共の場で「してはいけないこと、不快なこと」について、どうしてそのようなことをしてしまうか(原因)、どうしていけないのか(理由)、そうは思わない(反論)など、参加者同士がよく話し合い、結論を導き出すという作業をどれだけ深めることができるかがポイント(意見は一つだけではないはず)である。



# 通学路安全マップづくりワークショップ

～ 子どもたち自身で通学路をチェックしよう～

## 活動の趣旨

近年、通学路などで不審者による子どもへの声かけや痴漢・露出・つきまといなどの事例が目立つようになっている。こうした状況の改善のため、様々な地域で「通学途中の子どもたちを地域が見守る運動」が展開されるとともに、大人の手による防犯マップ作りが行われている。

この活動は、子どもたちが通学路を点検し、子どもたち自身の手で安全マップを作成することで、危険箇所等を把握して犯罪の防止につなげるものであり、子どもたちが地域を知るきっかけになる。

## 主な活動内容

・子どもたちの目から見た通学路の通学路安全マップ作りをする。

### 【データ】

#### 活動主体

登校班などの子どもたちと地域の中高生

#### 実施地域

通学区域

#### 連携（協働）先とその内容

自治会などの防犯組織、PTAなど

#### 活動形態

ワークショップ形式

#### 実施時期

半年くらいを想定

#### 参加対象・定員

登校班などの子どもたちと地域の中高生

#### 募集方法

登校班ごとに実施

#### 実施場所

社会教育施設や学校

#### 経費・財源

PTA会費など



### 【日程プログラム】

#### 4月 準備会議

発起人グループによる、計画骨子を考える会議。

#### 5月 第1回通学路安全マップ作りワークショップ（以下WS）

日程の確認

自己紹介ゲーム

通学路の現況などを自由に話し合う（ブレンディング 付せんを利用等）

#### 6月 第2回通学路安全マップ作りWS

前回のふりかえり

通学路の現況について、第1回に記入した付せん进行分类

#### 7月 第3回通学路安全マップ作りWS

通学路を現地踏査

現地踏査の内容を班内で発表

班内で集約した内容を班ごとに発表

#### 8月 第4回通学路安全マップ作りWS

班で集約した内容を、地域全体の地図へ集約する。

発表へ向けた役割分担、練習

#### 9月 第5回通学路安全マップ作りWS

地域の方（自治会、学校、PTAなど）を招いて班ごとに結果発表

PTAや自治会などの研修の位置づけで子どもたちが出向いて話をするのも効果があると思われる。

#### 10月 地域での啓発開始

自治会報・掲示板、PTA会報などを用いて危険箇所などの見守りを呼びかける。

ワークショップ開催の1週間前に打合せ会議を開催し、進行や準備物品について確認する。



## 活動のポイント

### 【実施地域の特徴】

- ・公民館区や自治会単位などの「地域」を対象地域とする。
- ・通学路だけでなく、日頃の遊び場や生活道路など範囲を拡大して行ってもよい。

### 【子どもの参画の仕方】

- ・自分たちの身近な話題であるため、比較的参加はしやすいものと思われる。
- ・小学生だけではなく、地域内にある中学校や高校での事例も入れるとより詳細なマップができあがる。

### 【若者の関わり方】

- ・この活動は、「子どもたち自身の手で」行うことがポイントである。(地図を上手に作る事が目的ではない。地図作りをとおして危機意識を養うことが目的である。)
- ・若者の関わり方として、子どもたちと大人たちの橋渡し役となることが求められます。  
具体的には、活動を進めていくためのコーディネーター、活動当日の進行役など学校や自治会、PTAといった地域に住む大人と一緒に取り組むとより効果が高まるので、そうした大人たちと子どもたちの間をつなぐ潤滑油的な役割が期待される。

### 【大人の巻き込み方】

- ・地域に住む自治会や防犯協会、学校、PTA、青少年健全育成関係団体などと一緒に取り組むことで、通学路の安全意識を高めていただくことが重要
- ・ワークショップのファシリテーター(一人ひとりの持っている経験、知恵、気づきを引き出し学習と参加を促進する人)、現地踏査の安全確保などの役割が考えられる。
- ・地元の警察署に依頼し、通学路の不審者対策についてのアドバイスをもらう。

### 【活動を円滑に進めるために】

#### < 子ども・若者の意見 >

- ・ワークショップ形式で進めることで、子ども・若者の意見を集約できるようにする。
- ・ワークショップの運営サイドに関わる中心的なメンバー(若者・大人)と参加者(子ども・若者)とに分け、それぞれが自分の意見を述べたり、役割を果たす場面を作り出すことが大切である。

#### < 活動内容 >

- ・安全安心まちづくりのイベント等の場で発表することも考えられる。
- ・交通安全、防災、痴漢防止などの視点も入れることで、子どもたちがいろいろな角度で地域を知るきっかけになる。



# 子どもミニ留学体験学習

～ 海外へ行かなくても、留学気分味わえる～

## 活動の趣旨

国際感覚を養うとともに、この体験を通して、国際社会に対応できる幅の広い視野を身につけ、自己の可能性への気づきを促す。

## 主な活動内容

地域に住んでいる外国人や小・中・高等学校のALT (Assistant Language Teacher : 外国語学習指導助手) 等の講師と連携し、宿泊疑似留学生活の中で外国語(日本語)を学ぶ。

### 【データ】

#### 活動主体

海外派遣研修等OBの若者とジュニアリーダーによる実行委員会、市、小・中学校(他市あり)

#### 実施地域

市内小・中学校区ほか

#### 連携(協働)先とその内容

小・中学生及び同じく外国人の子どもたち、中学校、他市

#### 活動形態

宿泊体験学習(2泊3日)ほか

#### 実施時期

8月下旬が望ましい

#### 準備開始時期

1月

#### 参加対象・定員

市内の小学6年生、中学1年生の日本人、同じく外国人の子どもたち(他市あり)

#### 募集方法

市内小・中学校へチラシ配布(外国人の募集は他市へも)

#### 実施場所

宿泊可能な研修施設他

#### 経費・財源

市の予算、受益者負担

### 【日程プログラム】 ( )内が企画進行

#### 1月 実行委員会発足

ジュニアリーダーが発起人となり、若者たちによる実行委員会を立ち上げる(ただし、市職員が支援していく形で)。実行委員会立ち上げ後、市職員の支援により、すぐに参加者募集に伴う市内小・中学校及び他市への案内をする。(次年度小6、中1になる子どもたち)締め切りは3月講師及びスタッフも同時に依頼、または募集を行う。

#### 3月 全体会議

講師及びスタッフを選考し第1回全体会議を開催する。同月中に参加者の選考会も行う。

#### 4月 募集・協力依頼

週1度の特別外国語会話教室開講及びプログラム作成会議も進めていく。外国人の子どもたちの募集、他市への協力依頼

#### 5月 外国人の子どもたちについての処々の調整

#### 6月 外国人の子どもたちの選考、調整、説明会

#### 7月 上旬 第1回日常外国語会話チェック

下旬 外国人の子どもたちとの顔合わせ会、自己紹介等

#### 8月 上旬 第2回日常外国語会話チェック

お盆休み(それぞれの気持ちの整理)

#### 下旬 子どもミニ留学体験学習開催

#### 9月 参加者ふりかえり会

参加者を集めてのふりかえり会(お菓子や飲み物、立食パーティー形式)

#### 10月 スタッフふりかえり会

講師、スタッフのみでのふりかえり会

## 活動のポイント

### 【実施地域の特徴】

- ・郊外で住宅地とは隔たれた区域で、自然体験活動等が可能な地域

### 【子どもの参画の仕方】

- ・研修期間中のプログラムは、外国語会話講師及び市職員と相談し、事前に参加する日本の子どもたちが作成する。
- ・基本的に、研修中は日本語を使用せずに展開していく。
- ・事前の外国語会話研修が必要である。
- ・自らが積極的に外国語で発言し意見交換を努力して行う。
- ・参加する外国人小・中学生も会話を理解しようとする努力が必要である。
- ・主には、外国語を学ぶためであるが、外国人小・中学生も日本語が学べるような研修プログラムを助言し考慮させる。

### 【若者の関わり方】

- ・発起人グループをジュニアリーダーに設定しておく。
- ・スタッフとして海外派遣研修等 OB の若者あるいは外国語に理解力のある高校生(ジュニアリーダー)・大学生を参画させる。

### 【大人の巻き込み方】

- ・地域に住んでいる外国人に声をかけ、協力依頼する。
- ・県・市区町村等で作成している人材バンクを利用し、外国人で外国語会話を指導できる人を探す。
- ・教育委員会に、活動の趣旨を理解してもらって、外国語会話講師の派遣を依頼する。
- ・同様に日本人外国語会話講師にも協力を依頼するが、研修期間中の主な講師役は外国人講師とする。
- ・講師間にも学習の機会を与えることも必要。

### 【活動を円滑に進めるために】

#### < 事前準備 >

- ・事前に、1週間に1度の日程で特別外国語会話教室を実施する。
- ・(財)神奈川県国際交流協会等に問い合わせて、協力してもらえる団体を紹介してもらい、その団体を通して外国人の子どもたちの募集をする方法もある。

#### < 内容の工夫 >

- ・外国人4人、日本人4人のグループを作り、1グループに1人の外国人外国語会話講師と3人の日本人外国語会話講師を配置する。
- ・外国語によるゲームや歌、物づくり、自然体験活動等を学ぶ。
- ・食事や生活面でも外国の生活様式を取り入れる等の工夫を凝らし、また、状況によっては、同様に日本様式も体験できるようにする。
- ・公平であることに配慮する。

#### < 発展 >

- ・今後、交流が進み、例えば外国人の子ども家庭へ、ミニホームステイを行い、更には、外国語会話能力試験など経て海外へのホームステイを考慮していく。
- ・(財)神奈川県国際交流協会等に紹介してもらった団体の行事等に参加して、交流を深める。



### 国際交流に関する情報源

(財)神奈川県国際交流協会 企画情報課 TEL 045-896-2896

ホームページ / 県内地域国際化協会等リンク集 URL: <http://www.k-i-a.or.jp/>

かながわ県民活動サポートセンターホームページ / ボランティア活動情報

URL: <http://www.kvsc.pref.kanagawa.jp/index.html>

(財)横浜市国際交流協会ホームページ / 横浜の国際交流・協力グループ / 国際交流・協力ボランティアグループ・リンク URL: <http://www.yoke.city.yokohama.jp/>

# 小さな新聞記者

～地域のちょっとしたいい話を見つけに、みんなで取材に出かけよう～

## 活動の趣旨

地域の新聞を子どもたちが主体となって作ることによって、地域の人たちと交流する。また、新聞を通して子ども・若者・大人の相互理解をはかる。

## 主な活動内容

地域の情報を調査し、新聞を作る。また、学校であった出来事(流行の遊びなど)を載せ、子どもが読んで大人が読んで楽しい記事にする。その記事を大学に貼ったり、近所に配ったりする。

### 【データ】

#### 実施主体

地域の若者

#### 実施地域

市内小学校区(または中学校区)

#### 連携(協働)先とその内容

自治会、子ども会、小中学校PTA、大学

#### 活動形態

年間を通した新聞作り

#### 実施時期

2～3ヶ月に1つを作成

#### 準備開始時期

3月にスタッフの募集開始

4月に取材開始

5月に発行

#### 参加対象・定員

地域の子ども・若者・大人、定員は特になし

#### 募集方法

自治会の広報・掲示板、地域の小学校・中学校などでチラシを配布

#### 実施場所

公民館、地区センターなど

#### 経費・財源

地域の商店からの広告料、PTAの予算(PTAと協力して行った場合)



### 【日程プログラム】

- 1月 若者スタッフ募集  
地域の大学の掲示板や小・中・高校で呼びかけをする。最寄のボランティアセンターなどにチラシを置いてもらったり、Web上で募集をかける。
- 2月 第1回コアスタッフ会議  
発起人グループと若者スタッフによる今後の計画骨子を考える会議  
スタッフ募集開始(市内小中学校への募集要項配布)
- 3,4月 取材開始(取材先の検討・決定)  
紙面の構想を練る  
記事のネタ集め(学校に記事のネタを集めるポストを設置するなど)
- 5月 広告掲載の交渉  
新聞発行、配布  
地域の商店街、小・中・高等学校、大学に配布。近隣住民にも配布
- 6月 第2回コアスタッフ会議  
発行した新聞の検討、改善点を次回に生かす。  
新スタッフ募集(市内小中学校への募集要項配布)
- 7,8月 取材開始  
(夏休み特集を盛り込んだり...)、広告掲載の交渉
- 9月 新聞発行、配布
- 10月 第3回コアスタッフ会議
- 10,11月 取材開始  
(学園祭など、地域の情報を沢山取り上げる)、広告掲載の交渉
- 12月 新聞発行  
発行後、子どもスタッフ、若者スタッフによるふりかえりをする。

## 活動のポイント

### 【実施地域の特徴】

特になし

### 【子どもの参画の仕方】

- ・小中学生スタッフは、積極的に記事のネタを探したり、地域の人と頻繁に関わり、できるだけ大人の力に頼らずに取材を行う。
- ・広告を出してくれる地域の商店を探したり、交渉したりすることにも積極的に参加する。

### 【若者の関わり方】

- ・活動の企画・運営・実施時のリーダー的存在として関わっていく。
- ・新聞全体のおおまかな構想をたてる。
- ・子どもスタッフのサポートを行う。
- ・若者の視点から記事を書く。
- ・新聞を作成するごとに、反省会を行い小中学生が次回の活動を円滑に進められるようなアドバイスを行う。

### 【大人の巻き込み方】

- ・子どもたちの地域についての取材などに、快く応じてもらえるようにする。
- ・広告掲載に関して、地域住民への宣伝となると共に、地域の活性化につながるということを伝える。

### 【活動を円滑に進めるために】

#### < コアスタッフ会議 >

- ・大人と若者スタッフとの会議(コアスタッフ会議)で、新聞作りのある程度の方針を固めておく。

#### < 記事内容 >

- ・記事内容は、子どもの身の回りの生活を始め、地域への取材やアンケート、コラムなど多彩なものにし、誰が読んでも楽しめるものにする。また、場合によっては、若者や大人も記事を書くことによって違う世代の相互理解ができるような記事作りにも取り組んでいけると良い。  
例えば、地域の名人発掘、学園祭っておもしろい、地域のイベント取材しました、大人が知らない小中学校で流行っていることなどの記事を書いたりする。また、あるひとつのトピックに関して、子ども・若者・大人のそれぞれの立場から意見を言うコーナー(どっち！勉強大切派？家の手伝い大切派？それとも遊びたい派？など)を作ると世代の相互理解にもつながっておもしろい。
- ・新聞発行後のアンケート調査などを行い、次へ活かしていく。

#### < 予算 >

- ・予算的に商店からの広告料が難しければ、PTAに趣旨を理解してもらい資金協力をお願いするのも良い。しかしその場合、取材が学校のできごと中心になってしまうこともあるので(自由度が狭まる恐れがあるので)、注意する必要がある。

#### < 子どもの安全 >

- ・子どもの安全を確保する。例えば以下のような工夫をする。
  - (1)必ず複数で取材に出かけること
  - (2)どこに取材に出かけるかを、毎回若者がきちんと把握していること
  - (3)腕章・ゼッケン等を身につけたり、幟(のぼり)を持って取材することで、地域の人たちに認知してもらおう。



# 回覧板ホームページ

～ 情報発信！子ども・若者も読みたくなるような回覧板づくり～

## 活動の趣旨

若者が主体となって、地域の情報を伝える回覧板のホームページ(以降HP)版を設置し運営する。若者から地域の情報を発信することにより、地域に住む人々がお互いを身近に感じることができ、地域のつながりを深めることができる。

## 主な活動内容

子ども・若者も読みたくなるような回覧板をインターネット上のHP上に構築する。

### 【データ】

#### 実施主体

地域の10代後半～20代前半の若者  
(中3～大学生くらい)

#### 実施地域

自治会単位、または小学校区単位

#### 連携(協働)先とその内容

自治会、各学校、地域の商店、行政、地域の大人、学校の先生など

#### 活動形態

HPの運営、更新、取材、広報

#### 実施時期

1月から翌年3月迄の14ヶ月間で1シーズン  
更新、取材、広報は随時(月2回会議)

#### 準備開始時期

開設時は半年前から。次年度以降は1～3月  
が引継ぎ、新規スタッフ研修期間

#### 参加対象・定員

スタッフ5～10名程度  
監督・管理の大人2～3名

#### 募集方法

中学校などでスタッフ募集チラシの配布  
自治会回覧板  
各学校、公民館、図書館、地域の商店などに  
募集ポスターの掲示  
メールなどで申し込み受付

#### 実施場所

自治会館、公民館、自宅のPCから  
(メール、メッセージなど)

#### 経費・財源

自治会費、バナー広告  
収入で運営



### 【日程プログラム】

- 11月上旬 第1回開設委員会議  
立ち上げ人(数名)で、計画を  
具体化する打ち合わせ  
HPスペース確保  
関係諸団体、商店などに協力  
依頼
- 11月下旬 第2回開設委員会議  
チラシ、ポスターの作成、印刷  
HP運営、管理上のルールの確  
認
- 12月 スタッフ募集開始  
チラシ、回覧板、ポスター等で  
募集
- 1月中旬～3月 スタッフ会議(以降月2回程度  
実施)  
事前研修  
趣旨説明。PCリテラシー演習、  
ネットでのマナーについて  
スタッフ役割分担
- < HP運営班 >  
記事や写真の編集・発信  
HPデザイン、運営・管理  
掲示板やコメントへの返信
- < 取材班 >  
地域各組織や団体から情報収集をす  
る。  
行事に参加し、写真撮影、記事作成
- 3月 HP開設準備
- 4月 HP運営開始  
月2回更新ペースで運営。  
(コメントなどに対する返信は随  
時)  
スタッフ打合せはインターネット  
を利用して随時行う。  
月2回のスタッフ会議は、管理  
委員の大人も交えて直接会って  
行う。

## 活動のポイント

全世代において、HP上でお互いに積極的にコミュニケーションをとるように心がける

### 【実施地域の特徴】

スタッフや指導者のいずれかの家庭、もしくは自治会館などに、インターネット環境の整ったパソコンが1台以上あること。

### 【子どもの参画の仕方】

・子ども記者を募り、イベントやその他地域に関する情報提供をしてもらう。  
(学校行事や子ども会での活動の感想の作文や絵などを提供してくれるとよい。)

### 【若者の関わり方】

・スタッフは、HPの運営全般、取材、情報収集など中心となって活動する。  
・イベントや、その他地域に関する情報提供をする。

### 【大人の巻き込み方】

・活動の趣旨を理解してもらうために具体的なもの(回覧板 HP の例)を事前に作成しておき、その有用性、有効性をプレゼンテーションして、大人を巻き込む。

### 【活動を円滑に進めるために】

・**監督、管理者**として複数名の大人を置くとよい。(自治会役員や学校の先生などで、コンピューターにある程度精通している人、地域のことを理解している人)  
・**監督、管理の大人**には、スタッフの自主性を尊重し、必要に応じて指導・助言してもらうとよい。(特にインターネット上の掲示板やメール等でやりとりする際のモラルの関係や個人情報の扱いに関する指導に重点)  
・地域の商店や団体等に**スポンサー**になってもらい、HP上に広告バナーを設置する代わりに、ポスターを掲示させてもらうとともに、**広告料**をもらう。  
・イベントや、その他地域に関する**情報提供**をする。  
・より多くの地域の人々に閲覧してもらえよう、**見やすいデザイン・ページ構成**と、充実した内容にする。  
・インターネットの特性を活かし、管理者と利用者が**双方向のコミュニケーション**が取れるようにHPを工夫する。お互いに積極的にコミュニケーションを図るよう心がける。  
・様々な自治会、小学校区単位で設置すれば、閲覧者やスタッフがコンテンツを通して、自分の住む地域だけではなく、**他の地域の人とも相互につながりを持つ**ことができる。  
(各市町村区単位でポータルサイトを設置してくれるとよい)

### HP具体案

双方向のコミュニケーションが容易にできるようにするために、Blog(ブログ)、Wiki(ウィキ)、SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)などを利用するとよい。

・イベント情報(学校、行政、子ども会、地域の団体など)  
・ゴミ収集日や災害時の対応などの自治会関連情報  
・取材班の行事体験記、HP運営班編集記など  
・掲示板、コメント欄(情報交換、コミュニケーションの場として)  
・関連団体や役所HPへのリンク、地域の商店のバナー広告 etc...



### 【用語解説】

**WWW( World Wide Web )**とは、インターネット等で提供されるハイパーテキストシステム(複数の文書(テキスト)を相互に関連付け、結び付ける仕組み)。単に Web と呼ばれることも多い。インターネットは本来、ネットワークを指す言葉であったが、日常用語では WWW を指すことも多い。

**ウェブページ (webpage)**とは、World Wide Web の個々のページのことである。もし、この記事が World Wide Web を使ってパソコンの画面上で見ているなら、あなたが見ているこの記事はウェブページの 1 つである。

**ウェブサイト(Website)**とは、一連のウェブページの集まりとしてできている意味のあるまとまり

**バナー広告**とは、バナー (banner) が WWW 上のウェブサイトで他のサイト(ページ)を紹介する役割をもつ画像のことで、主に広告・宣伝用に作られたもの

**PCリテラシー**とは、コンピュータを操作して、目的とする作業を行い、必要な情報を得ることができる知識と能力を持っていること。

**コンテンツ(contents)**とは、ウェブサイト上で提供される、ニュースなどの情報や音楽・映画・漫画・アニメ・ゲームなど各種の創作物を指す。

**ポータルサイト (portal site)**とは、WWW にアクセスするときの入口となるページのこと。

**ブログ(ウェブログ、Blog、Weblog)**とは、狭義には World Wide Web(Web)上のウェブページの URL (そのページを表すアドレス)とともに覚え書きや論評などを加え記録(Log)している Web サイト。

**ウィキ(Wiki)**あるいはウィキウィキ(WikiWiki)とは、ウェブブラウザ(ホームページ閲覧ソフト)を利用して WWW サーバ上のハイパーテキスト文書を書き換えるシステムの一つである。

**ソーシャル・ネットワーキング・サービス ( Social Networking Service )**とは、人々の「つながり」を重視して趣味や嗜好、仕事関係、男女関係などを電子的に構築するサポートをするサービスである。社会的ネットワークをオンラインで提供するもの、といってもよい。  
(出典:フリー百科事典『ウィキペディア ( Wikipedia )』)

# 私たちの笑店街

～ 儲かりまっか？ みんなで商売体験！ ～

## 活動の趣旨

- ・子どもたちが楽しく、笑顔で商売(就労)体験をする。
- ・地域の人たちが、この活動を通して知り合い、楽しく会話し、一緒に何かをする機運を作る。

## 主な活動内容

- ・年1回、子どもたちによるフリーマーケットを中心としたイベントを開催する。

### 【データ】

#### 活動主体

高校生以上の青少年、10人程度

#### 実施地域

小学校区または中学校区

#### 連携(協働)先とその内容

小中学校 PTA(共催)、自治会・子ども会(広報等協力)、教育委員会(後援)、公民館(会議場所提供)

#### 活動形態

フリーマーケット開催

#### 実施時期

春と秋

#### 準備開始時期

随時

#### 参加対象・定員

小中学生、定員は特になし

#### 募集方法

自治会の広報・掲示板、地域の小中学校でチラシ配布。参加団体についてはタウン誌等に掲載依頼する。

#### 実施場所

小学校または中学校の校庭(雨天時は体育館)

#### 経費・財源

第1回目はPTA行事として位置づけてもらい、2回目はその売り上げで、実施する。

### 【日程プログラム】

秋に第1回を開催するための日程

3月

#### 第1回コアスタッフ会議

発起人グループによる、計画骨子を考える会議。公民館、児童館、地区センターなどを借りて月2回程度の会議を継続する。

4月

#### 関係団体等協力依頼

自治会、子ども会、教育委員会、小中学校 PTA、協力依頼(資金・広報等含む)する。教育委員会には後援を、小学校 PTA には共催を依頼する。

5月下旬

#### 会場決定

小学校または中学校 PTA との共催を得て、フリーマーケットの会場を決定する。

6月

#### 子どもスタッフ募集イベント計画・準備

7月下旬

#### 子どもスタッフ募集イベント実施

夏休みを利用して、体育館を使った仮想フリーマーケット開催。スタッフによる模擬店をいくつか用意し、参加者には客と店番の両方を体験してもらう。

8月

#### 子ども・若者・PTA合同ワークショップ

フリーマーケットの規模・内容・アトラクション・参加団体等について、アイデア出しをする。

9月

#### 参加団体募集

並行して店を出す子どもスタッフは商品の仕入れ・調達、作成等を進める。

10月

#### 参加団体決定・調整会議

11月

#### フリーマーケット開催

12月

#### ふりかえりワークショップ&クリスマス会

子どもスタッフに、活動をふりかえってもらい、今後の活動をどうするかを若者スタッフと考えてもらい、今後につなげていく。その後慰労会を兼ねてクリスマス会を実施する。

## 活動のポイント

### 【実施地域の特徴】

特になし

### 【子どもの参画の仕方】

- ・小中学生スタッフはフリーマーケットを出店することが主な活動となる。
- ・出店以外の企画のアイデアも出す。
- ・フリーマーケットに来た子どもたちも店番をできるシステムにする。



### 【若者の関わり方】

- ・子ども(小中学生)が参加したくなるようなイベントを企画して、子どもスタッフを募集する。
- ・子どもが主体となるように、フリーマーケットの全体構想にも子どもが意見を出せるように工夫する。その際子どものやる気をそがないように、子どもの意見をできるだけ尊重する。
- ・大人と子どもの調整役に徹する役割のスタッフも必要である。

### 【大人の巻き込み方】例：PTAと協働する場合

- ・PTA 役員の負担ができるだけ少なくなるように、子ども・若者が主体で実施するということをうまくプレゼンテーションして、協力・理解を求める。
- ・PTA のメリットにもなり、地域の人たちが集まる楽しい行事に育てていくことを理解してもらい、協力してもらうように理解を得る。
- ・PTA は裏方にまわってもらうようにして、子どもができるだけ前面に出て活躍してもらう。

### 【活動を円滑に進めるために】

- ・子どもの当日参加者にも、「働く」体験ができるように、システムを工夫する。例えば 1 時間店番をすると、それに見合う回数券を渡して、それでゲームしたり、食べ物や飲み物を購入できるようにして、「働く」という体験をする。
- ・上記のシステムを取り入れると、売り上げは少なくなると思われるが、それでも売り上げが出た場合、次回のフリーマーケットの資金に、一部は PTA への寄付に回す。それでもまだ余裕がある場合は、子どもスタッフに還元することで、モチベーションをあげる。
- ・フリーマーケット以外の目玉として、魅力のあるアトラクションがほしい。例えば若者を引きつけるためのものとして、体育館のステージを使ったライブなども考えられる。その他若者の感覚で考えてみるとよい。
- ・大人向けの商品も用意する。
- ・地域の大人が集えるようなものとして、クイズ大会やもの作りチャンピオン大会なども考えるといいだろう。
- ・フリーマーケットの商品は、基本的には子どもが持っているものや家庭にあるものを主体とする。あとは自分たちで制作して売れると考えられるもの(例えば、アクセサリ・小物類、食べ物・飲み物類)がよい。
- ・飲食品を出す場合は、保健所の指導を仰ぐ。
- ・事前に自治会等に協力してもらい、当日の参加数のある程度把握し、それを参考にして飲食物の量を決定し、無駄のないようにする。
- ・総合的学習の時間で、農作物を栽培している小学校などでは、その作物をフリーマーケットで販売するとよい。



# こだわりのヘルシークッキング

～ 安心して美味しいものを食べたいですね～

## 活動の趣旨

- ・食文化にこだわり、ヘルシーで美味しく安心な食べ物を作り、食べる。
- ・地域の産業である農業を体験し、理解する。
- ・地域の子ども・若者・大人をつなぎ、笑顔で話のできる関係を作る。

## 主な活動内容

農業体験、料理作り、屋台(模擬店)体験、物売り体験

### 【データ】

#### 活動主体

ジュニアリーダー

#### 実施地域

小学校または中学校の学校区程度が良い。

#### 連携(協働)先とその内容

自治会・子ども会(協力)、小中学校 PTA (共催)、農家(農業体験への協力等)、公民館(会場提供)

#### 活動形態

年間通して日帰りで随時実施、最後はイベント

#### 実施時期

年間通して随時(地域行事に合わせる)

#### 準備開始時期

1月(農業体験に間に合わせる)

#### 参加対象・定員

地域行事の規模に合わせる

#### 募集方法

自治会の回覧板、小・中・高等学校でチラシ配布

#### 実施場所

公民館

#### 経費・財源

地域行事の主体から



### 【日程プログラム】

- 1月中旬 第1回コアスタッフ会議  
発起人数名による、計画骨子を考える会議
- 1月下旬 第2回コアスタッフ会議、  
チラシづくり
- 2月初旬 スタッフ募集  
近隣の中学校・高校で教わった教員を通して、学校の協力を仰ぎチラシを配布
- 3月 スタッフ会議 2回  
(4月以降月1～2回のスタッフ会議)  
活動内容、役割分担、スケジュール決定
- 4月 地域の協力者(自治会、子ども会、学校、  
公民館等)への挨拶と協力依頼(会議場  
所の確保、秋の地域行事への参加につい  
ての依頼も含む)
- 5月 参加者募集  
教わった教員を通して、小中学校の協力を  
仰ぎチラシ配布
- 6月 ワークショップ 2回  
活動内容について参加者との共通理解  
及びアイデア募集  
「こだわり農家さがし」について、計画立  
案と役割分担
- 7月 こだわり農家さがし
- 8～9月 農業体験(除草、収穫等)
- 10月 料理教室、事前準備
- 11月 地域行事への出店
- 12月 スタッフ・参加者による  
クリスマス会
- 1月 新年会、スタッフふりかえり会議

## 活動のポイント

### 【実施地域の特徴】

- ・農業が盛んであるが、新興住宅地もあり農業には実際にふれていない子どもが多い地域で実施しやすいだろう。

### 【子どもの参画の仕方】

- ・活動の中で中心となって働く。
- ・何を食べてみたいかを考え、それを作るためには食材にこだわる必要があることを理解し、安全な「食」について意識する。
- ・どのような農業体験をしたいかを考える。
- ・屋台(模擬店)での営業方法について考え、実際に商売をする。



### 【若者の関わり方】

- ・活動の企画・運営・実施をする。
- ・子どもの活動を支援しながら、活動を推進する。
- ・子どもにできることは何かを見極め、できるだけ子どもに役割を担わせる。
- ・子どものモチベーション(やる気)をあげることを常に考えるとよい。

### 【大人の巻き込み方】

- ・大人にもメリットがあるように、話を持っていくことが大切である。
- ・地域で誰(核になっている人)に話を通せば、円滑に進めることができるのかを事前によく調べておき、誠意を持ってお願いすることが大切である。

### 【活動を円滑に進めるために】

< スタッフ・大人の協力者 >

- ・実施主体をジュニアリーダーにしているが、地域で何かやってみたいという若者がいるのであればジュニアリーダーだけにこだわる必要はない。
- ・ジュニアリーダーズクラブ全体で取りかかるよりも、その地域のジュニアリーダー数名が核になって、地域の他の中高生を巻き込むと活動の輪が広がる。
- ・ジュニアリーダーズクラブからの派遣という形では、ジュニアリーダーが主体にはなれないので、ジュニアリーダーの自主活動として位置づけると良い。
- ・大人の巻き込み方として、大人側にもメリットがあることを強調して、交渉していくと良い。
- ・活動を立ち上げる上で、必要なことは地域の資源の活用である。したがって、地域の特徴、住んでいる人、公共施設等の情報を把握する必要がある。情報収集する際には地域の大人から聞き取り調査をするなどの地道な活動が必要である。

< キーワード >

- ・この活動では、「食」「農業」をキーワードにして、組み立てる。

< 実地地域 >

- ・対象地域は単位子ども会レベルだと「こだわり農家」を探すのが難しそうなので、学校区程度がよいだろう。



# 地域をつなぐリレー劇場

～ あなたも演出家・脚本家・俳優になれる～

## 活動の趣旨

地域、学校、家庭を結ぶ連携、協働の関係作りをする。

## 主な活動内容

- ・各公民館(地区センター等の施設でもよい)がある地域で劇団を作り、継続するストーリーを各地域でリレーし演劇を展開していく。
- ・市内の高校生から作品を募集する。



## 【データ】

### 活動主体

各公民館がある地域の小・中学生 20 人程度

ここでは 14 公民館のある市という設定にしてある。

### 実施地域

各公民館がある地域を対象とする

### 連携(協働)先とその内容

地域住民、小・中学校、公民館等

### 活動形態

市内の 14 公民館について、2 公民館を一つの単位として、その地域ごとに分け 7 つの劇団を作る。そして、各劇団がそれぞれ 40～50 分程度で終わる演劇を創作する。その 7 つのストーリーが継続性のあるものにして、各公民館区をリレー上演する。

### 実施時期

10 月下旬(2 年に 1 度の開催)

### 準備開始時期

実行委員会発足、作品募集を 7 月に

### 参加対象・定員

市民・定員は体育館等の収容人数による

### 募集方法

市広報紙、公民館だより等への掲載  
市内小・中学校、高校へチラシ配布

### 実施場所

2 公民館を一つの単位と考え、そのうち、立地や設備、広さ等を考慮して決定する。  
また、小・中学校の体育館も考えられる。

### 経費・財源

市の予算

## 【日程プログラム】 ( )内が企画進行

### 7月 実行委員会発足

ジュニアリーダーが発起人となり、若者たちによる実行委員会を立ち上げる。(高校生・大学生がスタッフ)ただし、市職員が支援していく形で。実行委員会立ち上げ後、早速、市職員の支援により、作品募集に伴う市内高校への案内(締切は12月)

### 9月 スタッフ募集・依頼及び監督依頼

### 11月 第1回全体監督者会議

### 12月 作品選考会及び出演者募集(スタッフ)

### 2月 第2回全体監督者会議

### 3月 出演者選考会(全体監督及びスタッフ)

### 4月 練習開始

1週間に1度のペースで練習開始、また、今月から1ヶ月に1度のペースで全体監督者会議を開催していく。

### 7月 中間発表

関係者のみを集めた中間発表を行い、7ストーリーを通した改善点等の確認を行う。

### 8月 お盆休み

それぞれの気持ちの整理

### 9月 最終確認

7ストーリー通しのリハーサルをする。

### 10月 全体監督者最終会議

下旬「地域をつなぐ劇場リレー」開幕

### 11月 各公民館区ふりかえり会

～ 慰労会を兼ねてクリスマス会を実施

### 12月 全体監督者会議ふりかえり会

各公民館区ふりかえり会を踏まえて

慰労会を兼ねて忘年会を実施

## 活動のポイント

### 【実施地域の特徴】

- ・地域に公民館などの施設があると望ましい。他の施設があれば、それを利用することもできる。

### 【子どもの参画の仕方】

- ・小・中学生は出演者として参画するが、自分や周りへのせりふや振り付けの演出についても積極的に意見を交わし参画する。
- ・公民館区ごとに役者は変わるが、役柄は同じであるところに微妙な違いが生じ、子ども一人ひとりの個性が活きる。

### 【若者の関わり方】

- ・ジュニアリーダーを発起人グループとする。
- ・スタッフとして高校生(ジュニアリーダー)・大学生を参画させる。
- ・市内の高校に通う現役高校生から作品を募集する。
- ・受験準備のため、4月から中3、高3(スタッフ)になる生徒の参加については、保護者と学校との調整を要する。

### 【大人の巻き込み方】

- ・まず、演劇に興味関心がある大人を巻き込むことが重要。
- ・監督(大人)はいるが、あくまで助言程度で、演出については、自分たちで構成していく。
- ・監督は各中学・高校の演劇部顧問やそれに関わる者、または、演劇クラブや団体に演劇に関して精通している者に依頼する。
- ・各監督間の意思疎通を常に図ること。
- ・スタッフは公民館区内の住民から、成人、高校生(ジュニアリーダー)・大学生を募集する。

### 【活動を円滑に進めるために】

#### <ストーリー>

- ・公民館等の施設の数によって、ストーリーの数を決めるとよい。
- ・継続するストーリーは、市内の高校に通う現役高校生から作品を公募する。
- ・ストーリーの内容には「家庭・地域・学校の協働」のキーワードが盛り込まれたもので作品を募集する。

#### <市職員の役割>

- ・公平性を保つために、市職員(公民館職員)が常に状況を把握し、演出内容に注意をする。

#### <日程調整>

- ・演劇の発表回数が増えるほど、日程調整が重要となり、公演日と公演日の日数が空かないよう考慮する。
- ・週1回の日程で練習していくとよい。
- ・スタッフ会議等は、子どもたちが練習する施設で主に行う。



# 地域ふれあい囲碁大会

～あなたも私も囲碁名人～

## 活動の趣旨

・年間を通じて実施する事業として、子どもと大人と一緒に参加できる「囲碁」を取り上げ、参加者である小学生が地域の中学生や高齢者とのふれあいが期待できる内容とした。

## 主な活動内容

・世代を超えて、多くの地域住民が参加できる囲碁大会を行う。

### 【データ】

#### 活動主体

若者(中高生)を主体とする実行委員会  
学社連携の事業

#### 実施地域

地域にある公民館、青少年センター、中学校など(なるべく「地域」を意識したものであることが好ましい)

#### 連携(協働)先とその内容

参加者:子ども会、小学校など  
主催者:公民館、中学校・高校の部活動など  
協力者:学校の部活動、老人会など

#### 活動形態

導入          ステップアップ          大会  
(合間にイベントの実施)

#### 実施時期

年間通して随時

#### 参加対象・定員

地域の小学生、中学生、地域住民

#### 募集方法

地域の自治会報・掲示板、地域の小学校、子ども会でチラシ配布

#### 実施場所

社会教育施設、学校

#### 経費・財源

公民館事業費、参加費など

### 【日程プログラム】

- 4月      準備会議  
          発起人グループによる、計画骨子を考える会議  
          実行委員会のメンバー選定
- 5月上旬    第1回打合せ会議  
          事業内容、日程、会場などの検討
- 5月下旬    第2回打合せ会議  
          実施主体の選定、依頼についての検討
- 6月上旬    実施主体の依頼・承認
- 6月下旬    参加者募集  
          子ども会、学校、公民館報を通じて実施
- 7月      第1回囲碁教室  
          導入部分のゲーム  
          中学校囲碁部の指導による小学生向けの教室(導入)
- 8月      第2回囲碁教室  
          中学校囲碁部の指導による小学生向けの教室(導入+発展)
- 9月      第3回囲碁教室  
          中学校囲碁部の指導による小学生向けの教室(応用)  
          地域の高齢者(公民館利用サークル)との対戦
- 11月     焼き芋、芋煮会(イベント例示)  
          囲碁を楽しんだ後、中学生・地域の高齢者・参加者の小学生のみんなで焼き芋などを楽しむ
- 12月     囲碁大会(その1)  
          リーグ戦方式(無作為)で囲碁の大会を実施
- 1月      囲碁大会(その2)  
          リーグ戦方式(階級別)で囲碁の大会を実施  
          順位決定 表彰

## 活動のポイント

### 【実施地域の特徴】

- ・なるべく中学校や公民館などの「地域」を単位とする。
- ・同じ地域に住む子ども、若者、大人、高齢者がひとつとなって同じ事業に関わることが大切。

### 【子ども参画の仕方】

- ・子ども会など参加者となる小学生にイベントのニーズを聞く

### 【若者の関わり方】

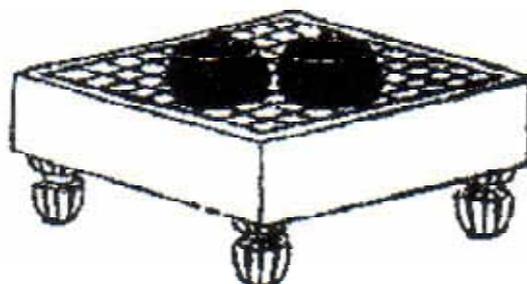
- ・指導役となる実行委員会の中学生を中心として事業を組み立てる。

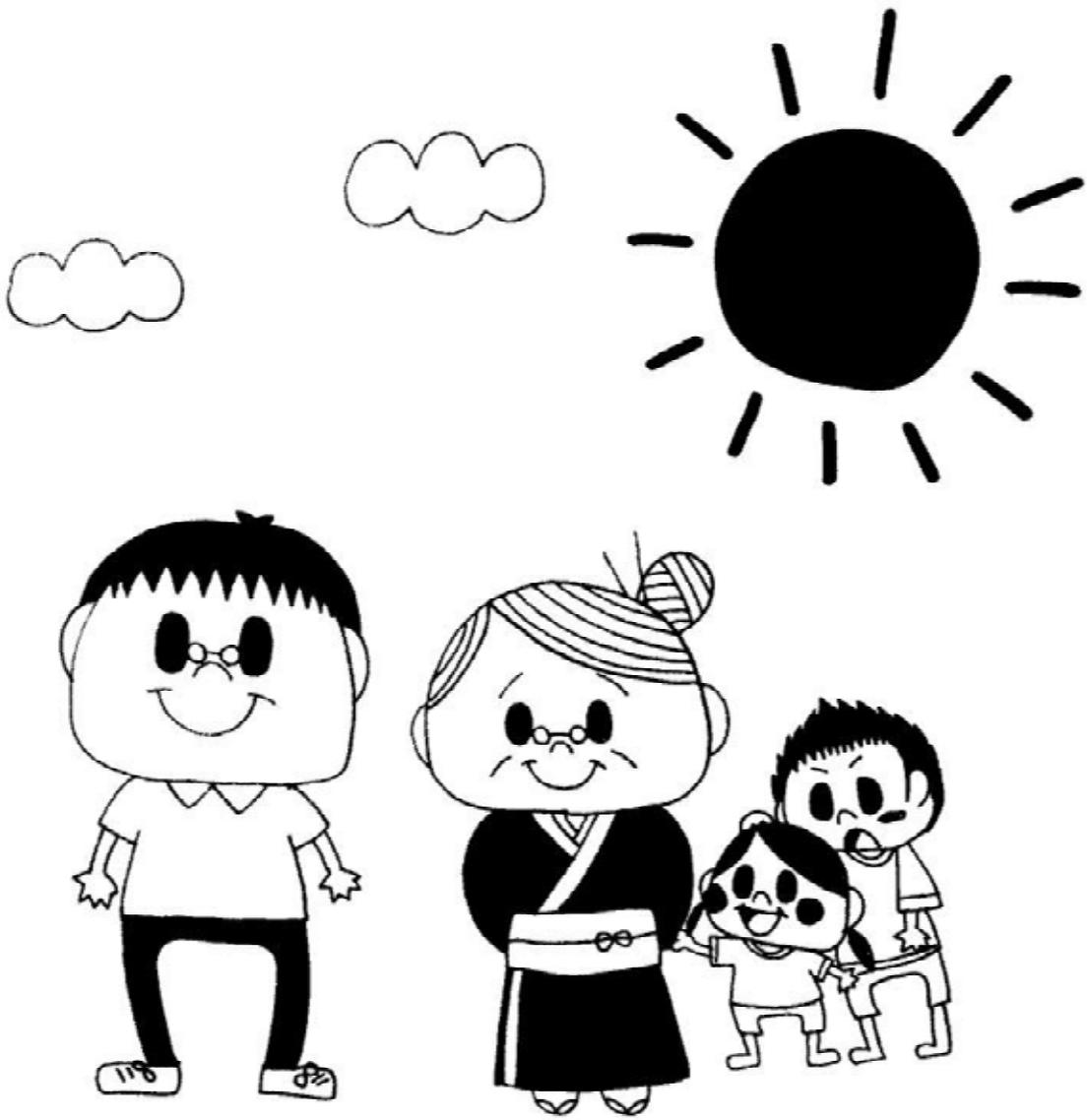
### 【大人の巻き込み方】

- ・地域の高齢者(公民館利用サークル)に事業へ参加してもらおう。
- ・イベント実施時に協力をしてもらおう。
- ・公民館などの社会教育施設は、実行委員会の意見を入れながら、全体のコーディネートを担当してもらおう。

### 【活動を円滑に進めるために】

- ・子どもの中には囲碁好きな子もいるので、うまく活用する。
- ・競技としての囲碁というよりもコミュニケーション手段としての囲碁という視点が大切。碁を指しながらいろいろな会話を楽しめるようにする。
- ・コミュニケーションを主眼にしているため、焼き芋など誰もが楽しめる内容のものを入れる。
- ・囲碁以外の競技として、将棋、オセロ、トランプ等を取り入れてもよい。
- ・さらに盛り上げる手段として、大画面によるテレビゲームスタイルにして、会場の参加者で共有できる方法も考えられる。ただし、ゲーム機メーカー等の協力を得られるようにしなければならない。

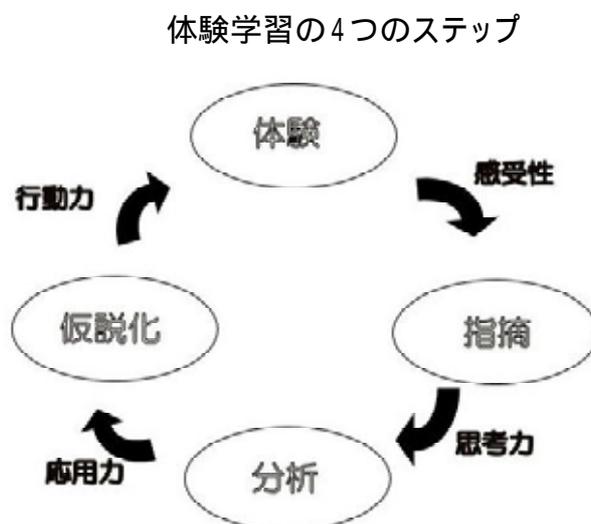




## 2 地域で活動する若者の育成プログラム

### (1) 体験学習を通して若者が育つ

子どもとの日常的な人間関係づくり体験を通して、若者が自ら成長することを期待します。そこには体験学習の理論が生きています。



#### ステップ1：体験すること

グループ(若者たち+子どもたち)で子どもと遊ぶことで、子どもとの関わりを体験する。

#### ステップ2：指摘すること(体験の内省と観察)

体験から気づいた点をふりかえり、共に体験したグループで共有する(分かち合う)。指摘するという言葉を使うが、これは他者を非難することではない。体験したことの中から、自分や他者の姿、関係やグループの様子を見つけ出すことを意味する。

#### ステップ3：分析する(一般化する)

ふりかえりで集められた情報・データについて、なぜそのようなことが起きたのかということ进行分析し、自分、子ども、そこにいたグループの問題点を考察する。

#### ステップ4：仮説化する

ステップ3で考察したことを活用して、次に子どもたちと遊ぶ際に、自分が成長するために具体的に試みてみたい行動を考える(これを成長のための仮説化と呼ぶ)。このステップを通して、自分の対人関係能力や社会的スキルを習得することになる。できる限り具体的な行動計画を立てることが大切である。

このステップ1～4の次に来るのが、新しい具体的な体験になり、再びステップ1～4を繰り返し循環過程によって、若者が成長していくこととなります。

### (2) 育成プログラム

若者が子ども活動に主体的に参画するためには、子どもとの関わり方が基本となります。それを身につけるには、どのような研修を受ければよいのでしょうか。対人関係能力は本を読んだり、人の話を聞いても身につくものではありません。やはり日常的にいろいろな人と

関わっていく中で、自然に身についていくものです。子どもとの関係づくりも同じです。したがって、子どもと遊ぶ体験を通して、若者に子どもとの関わり方を学んでほしいと考えています。

若者に地域で継続的に活動してほしいと考えると、自分の住んでいる地域の児童館等の施設を利用させてもらうのが最も手近で、しかも有効ではないでしょうか。地域の子どもと日常的に関わっていく中で、子どもとの関わりを学べると同時に、地域の子どもたちが何を考え、何を望んでいるのかもわかるようになります。そこからが、地域を元気にし、しかも子どもが健やかに育つための子ども活動のスタートです。もし児童館等の施設がないような地域であれば、放課後児童クラブ、地域子ども教室(文部科学省子どもの居場所づくり推進事業)、プレーパーク(冒険遊び場)などを利用させてもらう方法も考えられます。

**育成プログラムの見方：** の1の活動プログラムの見方に準じます。

**自主研修・日常(長期)タイプ:「児童館へ行こう」(P.42)**

既存のグループなどで自分たちが研修を積む際に利用できるプログラムです。このプログラムの特徴は、自分が住んでいる地域の児童館等の施設に日常的に通って、子どもたちと遊ぶというものです。この日常的な人間関係づくりを重視しています。

**行政主導・短期集中タイプ:「子どもと遊ぼう」プロジェクト」(P.44)**

子どもと関わる若者を育てて、地域で活動する若者を増やしていくためのプログラムです。地域に根ざした活動をするジュニアリーダーの絶対数が不足している現状があり、ジュニアリーダーズクラブの事務局が青少年主管課になっている場合などに、利用していただきたいと思います。このプログラムの特徴は、中高生が参加しやすい夏季休業中の期間に実施することです。夏季休業中であれば、子どもたちも児童館等の施設に平日でも午前中から遊びに来ているので、子どもと接する機会が多くなります。

(3) 若者が子ども活動に参加するために学んでほしいこと

ア 子どもとの接し方(初級から中級)

(ア) 子ども理解及び子どもとの接し方を体験的に学ぶ活動

- ・児童館等施設への訪問
- ・子どもキャンプにおけるサブリーダー体験等
- ・子ども対象のイベントへのボランティア参加等

(イ) 子どもとのコミュニケーションスキル(コミュニケーション能力)

「子どもの話を聞く」「子どもに話をする」「子どもと会話する」を学ぶためのロールプレイ体験

ロールプレイ:あるテーマについて、自分とは異なる立場(同じ場合もある)の人物になりきり、役割(ロール)上の立場に立って考え、議論する(問題解決を図る)学習手法

(ウ) 子どものモチベーション(やる気)を高め、子どもから意見を引き出すスキル(能力)

- ・アイスブレイキング(またはアイスブレイク)の手法

アイスブレイキングとは、場の固い雰囲気や緊張を和らげ、参加者の緊張を解きほぐすことを目的とした簡単なゲームやアクティビティを「氷を砕く」という意味で「アイスブレイキング」と呼ぶ。

<参考>「アイスブレイクの進め方」日本キャンプ協会

<http://www.nyc.go.jp/sponsored/16sizen/16shibun3.pdf>

<参考文献>「みんなのPA系ゲーム243」(諸澄敏之編、2005年、杏林書院)

・コーチング(相手の目標を達成させるため、その人の能力を引き出すこと)

イ 活動の企画・運営(上級)

- (ア) アイデアを出す能力
- (イ) 企画力
- (ウ) マネジメント力(活動を管理・運営する能力)

ウ 組織の運営(上級)

- (ア) マネジメント力(組織を運営する能力)
- (イ) 次世代を育成する能力(世代交代の促進)

エ 大人との関係(上級)

- (ア) 大人の話に素直に聞ける
- (イ) 大人に意見を言える
- (ウ) 大人を説得する力

オ 子どもをリードして活動を進める方法

- (ア) アイスブレイキングの方法(中級)  
場を和ませ、モチベーションをあげる手段
- (イ) ゲームの組み立て・リード(中級)



出会いのアイスブレイキング

- (ウ) ファシリテーター(一人ひとりの持っている経験、知恵、気づきを引き出し学習と参加を促進する人)の役割(上級)
- ゲームは手段であって、目的ではないことを理解し、何のためにゲームをするのかを考え、その目的にあったアクティビティー(活動)を選び、組み立て、リードする能力

- ・ワークショップ形式の活動を進めていく役割
- ・会議・打ち合わせの進行役
- ・参加型学習を進めていく役割

アイスブレイク、KJ法、グループ討議、合意形成、ブレインストーミング、グループワークトレーニング、ロールプレイ、環境教育プログラム、シンポジウム等

大人と一緒に進める形がよい。補助役として関わりながら、学ぶとよい。

KJ法:文化人類学者の川喜田二郎氏が考えたカード操作による発想法

ブレインストーミング:集団(小グループ)によるアイデア発想法の1つで、会議の参加メンバー各自が自由奔放にアイデアを出し合い、互いの発想の異質さを利用して、連想を行うことによってさらに多数のアイデアを生み出そうという集団思考法・発想法

カ 野外活動の基礎

- (ア) キャンプ、ウォークラリー等を実施する際に必要な基礎知識・技術(中級)
- (イ) カヤック、カヌー等の水辺の活動についての基礎知識・技術(中級)
- (ウ) 救急法、心肺蘇生法の資格取得(初級)
- (エ) 水辺のレスキューの基礎知識・技術(中級)
- (オ) リスクマネジメント=危機管理(中級から上級)

予測される危険に対して、事前に対処することで、プログラム展開上の安全管理をする。

# 児童館へ行こう

～ 地域の子どもと遊んでみよう～

## 活動の趣旨

- ・若者が実際に子どもと遊ぶことを通して、子どもとの関わり方を学ぶ。
- ・若者のコミュニケーション能力の向上を図る。
- ・子どもの考え・能力・やる気を引き出すノウハウを学ぶ。



## 主な活動内容

- ・毎週土曜日に児童館等の施設を訪問し、ボランティアとして子どもと遊ぶ。

### 【データ】

#### 実施主体

ジュニアリーダー等の若者

#### 実施地域

在住している地域

#### 連携（協働）先とその内容

市内児童館等施設、市教育委員会（児童館等施設主管課）

#### 活動形態

毎週土曜日の午後

#### 実施時期

随時

#### 準備開始時期

1～3月（企画・準備期間、連携先との調整）

#### 参加対象・定員

ジュニアリーダーズクラブ会員（中高生）、定員は特になし

#### 募集方法

各中学校、周辺の高等学校

#### 実施場所

施設訪問：児童館等の施設  
全体研修会：市立中央公民館等で広い会場のある施設

#### 経費・財源

特になし

### 【日程プログラム】

- 1月 企画（具体的内容決定）
- 2月 市教育委員会（児童館等施設主管課）への協力依頼、市内児童館等施設
- 3月 自主研修  
集団遊び・昔遊び体験等
- 4～3月 施設訪問、自主研修、小イベント実施



## 活動のポイント

### 【実施地域の特徴】

児童館等の施設がある地域がよい。施設がない場合は、土曜日に開いている放課後児童クラブがあれば、そこに依頼して訪問する方法も考えられる。

### 【若者の関わり方】

- ・自分が小学校の頃に、遊びに行っていた児童館がよい。
- ・子どもとの日常的な関係づくりを大切に、本音で話ができるようにする。  
地域の子どもとの日常的な関係づくりを考えた場合、自分が住んでいる近くの児童館がよい。またその地域で次世代を育成する(小学生が中高生になって、同じように遊びに来てくれるように)という意味もある。
- ・遊び相手として、子どもに関わり、日常的な関係づくりを念頭において、活動していく。
- ・児童館の事業(イベント等)にもボランティアとして、積極的に参加し協力する。
- ・人間関係ができてきたところで、小イベントを企画し実施する。  
例)ジュニアリーダーの得意技を發揮して、ゲーム大会を実施する。あるいは昔遊び体験などもよい。

児童館の指導員と事前に十分に打ち合わせをする。

- ・子どもが自分たちでやりたいことを聞き出し、可能だと思われることを実施していく。  
研修中と考えれば、施設内の活動に留めておく方がよい。もし施設外で活動を実施するのであれば、十分な事前準備が必要である。保護者の同意、安全管理面で十分な配慮、子どもたちの保険の加入、他のクラブ会員の協力等について、事前にクリアしておかなければならない。

### 【大人の巻き込み方】

- ・ジュニアリーダーズクラブとしての活動であれば、青少年主管課を通して、教育委員会に協力依頼するとよい。
- ・児童館の事業(イベント等)への協力も約束し、メリットを強調する。
- ・昔遊びの達人(大人)をさがし、協力依頼し、事前に指導してもらって体験しておくとうい。
- ・昔遊びの達人(大人)に依頼して、イベントを実施することも考えるとよい。

### 【留意点】

- ・ボランティア保険に入っておくことを勧める。
- ・児童館指導員とは、事前に十分な打ち合わせをし、役割分担を明確にし、児童館指導員の役割を奪うような関わり方はしないようにする。あくまでボランティアであることを忘れてはならない。

### 【ふりかえり・研修会】

- ・必ず複数で訪問し、児童館の閉館時間後、ふりかえりをする場を設け日誌の形で記録を残し、次回に生かす。
- ・月に1回程度、児童館で活動している全員が集まって、全体研修会を開き、子どもとの関わり方について情報交換をして全体で共有する。またテーマを設け、知識・技能を高める場とする。  
例)ゲームを使ったコミュニケーションの方法、ソーシャルスキルトレーニング(SST)(1)、コーチング、アサーショントレーニング(2)、環境学習、自然観察、昔遊び、ニュースポーツ、クラフト等

1 ソーシャルとは「社会的」「対人的」「人づきあい」、スキルとは「技」「技能」「技術」つまりコツの意味である。人は、経験を通して人づきあいのコツを覚えていくのである。SSTとはそのためのいろいろな手法を取り入れたトレーニングの方法である。

2 お互いを大切にしながら、それでも率直に、素直にコミュニケーションすることをアサーションと言い、そのためのトレーニングの方法である。

講師を呼ぶのに予算が必要な場合、青少年主管課と相談するかまたは青少年活動に対する助成金をさがし、経費を捻出する。

# 『子どもと遊ぼう』プロジェクト

～ジュニアリーダー育成プログラム～

## 事業の趣旨

- ・子どもと関わる若者の裾野を広げ、人材育成を図り、ジュニアリーダーへの勧誘も図る。
- ・若者が実際に子どもと遊ぶことを通して、子どもとの関わり方を学ぶ。
- ・若者のコミュニケーション能力の向上を図る。

## 主な事業内容

- ・夏季休業中に児童館等の施設を訪問し、ボランティアとして子どもと遊ぶ。

### 【データ】

#### 実施主体

市(区町村)青少年主管課

#### 実施地域

市(区町村)全域

#### 連携(協働)先とその内容

市内児童館等施設、市・県教育委員会、管内教育事務所、市内中学校、市内公立・私立高等学校(中学生、高校生ボランティアの募集)、県立青少年センター(企画協力及び研修のノウハウの提供)

#### 事業形態

事前研修(日帰り2回)、施設訪問(夏季休業中の週2日(土日含む))、情報交換・研修(日帰り)、事後研修(日帰り)

#### 実施時期

6～9月

#### 準備開始時期

前年度10～3月(企画・準備期間、連携先との調整)

#### 参加対象・定員

市内中学生、市内在住高校生

定員は、受け入れ施設の規模、数による。

#### 募集方法

各中学校、周辺の高等学校

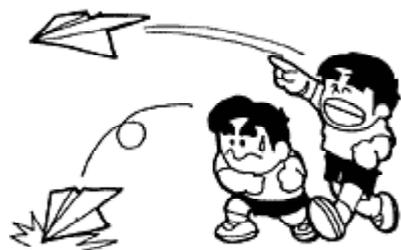
#### 実施場所

施設訪問:児童館等の施設

全体研修会:市立中央公民館等で広い会場のある施設

#### 経費・財源

市の予算



### 【日程プログラム】

- |        |  |
|--------|--|
| 10月    | 企画段階<br>企画(具体的内容決定)・起案・予算計上、県立青少年センターへの協力依頼及び打ち合わせ |
| 11～12月 | 行政等へ協力依頼<br>市・県教育委員会・管内教育事務所への協力依頼                 |
| 1～3月   | 関係機関へ協力依頼<br>市内中学校、市内公立・私立高等学校への協力依頼、児童館等施設への依頼    |
| 4月     | 児童館等施設指導員への説明会及び研修会                                |
| 5月     | 中高生ボランティア募集  |
| 6月     | 事前研修2回   |
| 7～8月   | 施設訪問   |
| 8月中旬   | 全体研修1回   |
| 9月初旬   | 事後研修1回   |



## 事業のポイント

### 【実施地域の特徴】

児童館等施設が各地域にある市(区町)がよい。もし施設がない場合は、土曜日に開いている放課後児童クラブと連携することで、実現可能である。その他には、地域子ども教室推進事業(文部科学省子どもの居場所づくり推進事業)との連携も考えられる。

### 【研修内容の例】

#### < 事前研修1 >

アイスブレイキング体験(参加者同士の関係づくり)、子どもとの接し方(ロールプレイによる、話し方・聴き方体験)、児童館からの諸注意(児童館指導員より)

#### < 事前研修2 >

遊びの達人による昔遊び体験、集団遊び体験、安全管理(リスクマネジメント)

#### < 施設訪問 >

子どもと遊ぶ体験(この体験を通して子どもとの関わりを学ぶ)、ふりかえり日誌記入(毎回複数で訪問できるとよい。共通体験をふりかえることができ、それを共有できる。)

#### < 全体研修 >

情報交換及び各事例に対する意見交換、テーマ研修(アイスブレイキングの手法等)

#### < 事後研修 >

全体のふりかえり、今後の活動の方向性について、ジュニアリーダー活動・入会案内について

### 【大人の関わり方】

#### < 研修担当者 >

- ・定期的に施設を訪問し、若者の様子を見ると同時に、指導員に状況を聞く。
- ・メーリングリストを立ち上げるなどして、参加者の情報の共有化を図る。
- ・若者が個人的に相談をできるようにしておく。
- ・青少年活動や子どもと接することにおいて経験豊かな人に依頼して、若者にアドバイスしてもらう。
- ・4月の説明会・研修会で児童館指導員に対して、事前に研修の意義や内容について十分な説明をして、協力依頼しておく。

#### < 児童館指導員 >

- ・役割分担を明確にし、若者が直接子どもと接することができるように配慮する。
- ・事業(イベント等)が施設訪問中にあれば、参加者の若者に来てもらい、積極的に動くように指示する。

### 【事業を進める上での配慮事項】

- ・教育委員会等の連携先には、中高生がこの事業に参加すると、どういう効果があるのかということとを具体的に説明する。また子どもにとっても、自分たちと異年齢の若者(中高生)と遊ぶことで、いろいろな経験になることを理解してもらう。
- ・児童館指導員との連携・協働が非常に重要であるので、事前に十分な趣旨説明をし、理解してもらうことが必要である。
- ・県立高等学校の生徒であれば、手続きをすることで、この活動が学校外におけるボランティア活動として位置づけることができることができれば、単位の認定につながることもある。

学校外における学修の単位認定(学校外における学修の単位認定に関する実施要領)

科目「ボランティア活動」に該当する活動

- (ア) ボランティア活動、その他これに類する活動に係る学修で、継続的に行われる活動(当該生徒の在学する高等学校の教育活動として行われるものを除く。)として高等学校教育に相当する水準を有すると校長が認めたもの。
- (イ) 公的機関やそれと同等の信頼できる団体等の受け入れや仲介のある活動であり、受け入れ先や仲介先と十分に連携がとれ、活動の証明が可能であること。

